

	内容別・課題別の課題分析 (知識、技能)	具体的な授業改善策	評価・反省
国語	<ul style="list-style-type: none"> 音読する際に言葉のまとまりを考えながら読むことに課題がある児童が多い。 「書く」活動において、思ったことや考えたことを書くことが苦手な児童が多い。また促音や拗音の表記等の誤字・脱字が多い。 既習漢字を正しく使用できない児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 教材の音読で「はきはき」「すらすら」など観点を示したり、評価したりして、音読の上達を実感させる。宿題など家庭学習として毎日音読する機会を設ける。 教科書の教材文の初発の感想、自分の思ったことや考えたことなどを、手本を示したりスモールステップで書かせたりして、書くことへの苦手感を減らしながら取り組ませる。「はじめ・中・おわり」といった構成や、順序を表す言葉など文章を書く上でのポイントを提示する。 特殊音節のワークと音の動作化に取り組みせ、正しく書けるようにしていく。 教科書の巻末や漢字ドリル等を活用して、既習漢字を国語に限らず日々の学習の中で正しく使えるように促していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業中に音読の評価の観点を示し、即時的に評価をすることで、すらすらと読む児童が増えた。宿題等を含め、言葉を声に出して読む活動を多く取り入れることで、言葉につまずきながら読む児童が以前よりも減った。 「書く」活動を多く取り入れ、児童同士で読み合うことを通して、自分の考えを書いて表現することに抵抗をもつ児童が減った。書くことに苦手意識をもつ児童については、手本を示したり、書き出しを示したりして、粘り強く支援していく。 読み書きワークシートで文字指導を行うことにより、動作化を取り入れながら特殊音節を正しく書こうとする児童の姿が見られた。 ノートへの記入の際、既習漢字を正しく使おうとする意識が高まった。
算数	<ul style="list-style-type: none"> 3位数、2位数の加法及び減法の計算や数の相対的な大きさについて理解できていない児童が多い。 時刻の読み取り、時間の計算が苦手な児童が多い。 物差しを使った長さの計測や直線を引くことが十分にできない児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 習熟度別グループでの授業を行い、児童の実態を把握し、児童に合わせた課題を設定する。 授業の冒頭に短時間活動を取り入れ、10の構成や1桁、桁の加法・減法の計算に繰り返し取り組む。 「あと何分経ったら、〇〇」「●時〇分に～をする。」など生活の中で、意図的に時刻と時間を活用する。 朝学習等で、時間と時刻の読み取り・計算に取り組む。 筆算の際に物差しを使って線を引く、教科書に物差しを使って線を引くなど、算数の時間以外にも、物差しを活用する場面を設けて、物差しに慣れさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 教員同士で連携し、各グループの学習能力に応じて、授業の進度や内容を工夫することができた。 ベーシックドリルに取り組み、1年生の内容を全体で復習することができた。 意図的に現在の時刻やあと何分かなどの時間の間隔を聞くようにしたが、苦手意識が見られた。引き続き、朝学習や宿題、授業での復習タイムを設けて、取り組んでいく。 長さを測る、線を引くなど物差しを使用することに慣れてきた一方で、測量や計算が正しくできない児童がまだ多い。 九九の定着に個人差がある。
生活	<ul style="list-style-type: none"> 観察の学習（野菜・身近な生き物）や町探検の学習では、興味関心をもって取り組んでいるものの、観点到に沿ってよく見て観察したり、気付いたことを言葉で表現したりすることが苦手な児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「おさかなみにいく」を唱え言葉にして、「見たこと（色、形、大きさ）」「におい」「手触り」「思ったこと・感じたこと」などの観点を分かりやすく示して観察の観点を意識させた活動内容を設定する。 自分が気付いたことをグループや学級全体に伝える活動を取り入れ、さらに学習内容を深められるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 観察の視点を明確にすることで、前回との変化や予想との違いなど、詳しく観察することができた。 町探検等の学習を通して、学んだことや気付いたことを児童同士で共有する時間を多く設定したり、お互いの良いところを認める機会を作るなどして、表現することへの抵抗感が以前より減った。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 歌唱では、意欲的に声を出せるが互いの歌声や伴奏を聴いて声を合わせられるとよい。 器楽では、楽器の音色や奏法に気を付けて演奏できるようにする必要がある。 鑑賞では、曲や演奏の楽しさを見だしながら聴くことができる。一人一人が曲の特徴などを捉え、身体表現や言語表現ができるとうい。 	<ul style="list-style-type: none"> 少人数で歌う場面を設けてお互いに聴き合ったり、曲想や歌詞の内容を捉えさせどのように歌うかについて意見交流をしたりする。 様々な楽器に触れて色々な音を出す体験をさせ、それぞれの楽器がもつ固有の音色の良さや面白さに気付くようにする。 感じたことを安心して自由に表現できる環境を整える。表現できたことやよいものを全体で共有し、評価する。 	<ul style="list-style-type: none"> 歌唱では、ペアで声を聴き合ったり、どのように歌うかについてみんなで考えたりして歌うことができた。 器楽では、音楽会の曲などを通して様々な楽器に触れさせ、興味を持って取り組む様子がみられた。音色への意識をもう少しもたせたい。 鑑賞の学習では、曲を楽しみながら聴くことができた。
図工	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な用具の使い方が分からない児童がいる。 表現したいことが表せず、苦手意識をもっている児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な材料・用具の使い方など動画や板書などを活用し、視覚的に分かりやすく伝えて定着を図る。参考作品を授業の始めに提示し、イメージ・見通しをもちながら工夫して表せる環境をつくる。 机間指導でつまずきのある児童を把握し、話を聞きながら選択肢を提示する。学級全体でできたことやその児童のアイデアを共有し、自信をもたせる。 	<ul style="list-style-type: none"> わかりやすく課題を提示することで意欲的に取り組む児童が増えた。 机間指導ではまんべんなく周れるようにし、児童のつまずきに気づくようにしていく。

<p>体 育</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・友達のよい所を見付けたりよりよい動きを工夫したりすることが、十分ではない。 ・体ほぐし・体づくり運動や、跳び箱や鉄棒等の運動器具を使用した技能に、個人差が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「する」「見る」「支える」「知る」の視点を適宜声掛けし、友達のよいところを見つけて、取り入れることを意識させていく。 ・全体で、児童のよい所を共有して、その良さに気づかせ、認め合う雰囲気作りを行う。 ・ゲームなどの場面では、より活発に楽しく行うためにはどうすればいいか、よい方法を工夫させるなど、児童同士で話し合う場面を意図的に作るようにする。 ・活動の流れや、活動の仕方を図で示すなどして見通しをもたせる。できたことや挑戦したことを大きく価値付け、技術の習得や技能の向上に前向きに取り組めるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子供たち同士の対話をゲームの途中や振り返りの場面で意図的に設けることで、ゲームでの動き方や楽しく、安全に運動する方法につなげることができた。 ・掲示物の図やワークシートを用いて取り組んだことで、教師が動きの説明をしやすくなり、子供たちも取り組む内容を視覚的に理解することにつながった。 ・苦手意識をもつ児童にも、粘り強く取り組む姿を称賛することで、児童の技の向上にも繋がった。
----------------	--	--	---